
静かなお別れ

鈴木一郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

静かなお別れ

【Nコード】

N0800X

【作者名】

鈴木一郎

【あらすじ】

最近明花の様子がおかしい。そう感じた春樹の前に、死んだはずの明花の両親が現れる。彼らの口から、春樹に衝撃の事実が告げられる……。

「春樹君。明花は……既にこの世にはいないんだよ」
恋人を取り返そうと奮闘する少年の物語。

さらば愛しき女よ

卯月明花の力は強大だ。それは、日常を少し楽しくするために、彼女に与えられた新たな力なのかもしれない。

無論、彼女は知っていた。その力は、何かの対価になっていることを。

そして、ある日悟った。自分に残された時間は少ないと。無論、死にたくはない。だが、これは運命なのだ。そう考えた彼女は運命を静かに受け入れた。

だが、心残りなことがあった。恋人のことだ。彼女の恋人、弓月春樹は、何としても彼女が一人で逝こうとするのをやめさせようとするだろう。明花にとっては嬉しくもあり、同時に悲しいことでもあった。

だから、彼女は決意した――

第二話

弓月春樹の第六感はよく当たる。

当たると言っても、宝くじや福引きはおろか、年賀状のお年玉くじにすら当たったことがない。当たるのは、大概嫌なことに限る。今回のケースもそうだ。

明花の様子がおかしい。

突如変態的なプレイを好みだしたというわけではないし、夜な夜な一人遊びに出掛けるというわけでもない。ただ、違和感を覚えるのだ。明花が明花であって、明花でないような——そんな違和感だ。「どうかした？ 春樹」

その声に春樹は我に返った。見上げると、鞆を持った明花が不思議そうにこちらを見つめている。

「え？ ああ、いや、なんでもない」

春樹は慌てて立ち上がると、鞆を手にとった。二人揃って教室を出る。その背中に、クラスメイトの葛城が大声を浴びせた。

「明花ちゃん！ 今度喫茶店行こうよー！」

「また今度ね」

まただ……と春樹は違和感を覚えた。一挙手一動、彼女が変わったところはない。だが、何かが違うと第六感が彼に告げるのだ。

だが、明花が明花以外の何かになるなど、考えられるはずもない。春樹はそのことを言い出せずに、悶々とした日々を送っていた。

「……春樹？」

明花の声に、再び我に返る。春樹は曖昧に頷きながらやや歩幅を広くした。

明花のことで気になることがもう一つある。それは、明花が全く『力』を使おうとしないことだ。

以前はちょっとした気障ることがあつたら、春樹に対し『力』を行使していたものだが、最近はそれがまったく無くなっている。

どういう心境の変化だろうか。

春樹はあることに気づき、歩みを止めた。

……まさか、力が使えなくなったのか？

春樹は別に、明花が力を使えようと使えまいとどうでもいいと思っていた。彼が彼女に告白した理由に力のことは一切関係ないからだ。むしろ、彼女のことを考えると、喜ばしいことなのかもしれない。

だが……それならばなぜ、彼女はそれを俺に伝えてくれないのだろうか？ 春樹はそれが理解できなかった。俺を心配させたくないということなのだろうか、それとも、何か他に理由でもあるのだろうか。

わからない。わからない。わからない……

「……あんたちよつと変よ？ 大丈夫？」

どうにかあるのはお前の方じゃないのか、と春樹は言ってやろうとしたが、やめた。曖昧に頷き、明花とゆっくりと前進していく。

「悩んでることがあつたら相談しなさいよ」

「ああ……そうだな……」

結局春樹は、疑問を口にすることができなかった。ぎくしゃくとした日々が数日続いた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0800x/>

静かなお別れ

2011年10月10日11時05分発行